

## 「創傷ケア」研修補足

※本日の研修は、在宅で必要な創傷治癒の基本から応用について学ぶという目的のため、①創傷治癒経過について知る②基本的なケア方法および在宅でも可能な方法について考えるという目標の元、お話いただきました。

\*資料2ページ目（3ページ目のスライド4枚目も参照）

- ・皮膚の解剖→創傷癒で一番大事になってくるのは“基底層”。  
基底層の有無で傷の治り方、痕の残り方が変わってくる。

\*資料3・4ページ目

- ・創傷の種類は沢山あるが、原因がどこからきているのかしっかり観察することが大事になってくる。
- ・創傷治癒のメカニズム→創傷を語るうえで外せない項目  
一次治癒（再生治癒）と二次治癒（瘢痕治癒）の違いを理解する。  
二次治癒の場合、治癒過程が進むための環境を整えることが看護の仕事。
- ・治癒過程は、建築過程に例えるとイメージしやすい。

\*資料6ページ目

- ・傷は湿潤環境で治る→乾燥させてはダメ
- ・健全皮膚は浸潤させない  
⇒2つを同時に行えるのがドレッシング材になるが、物がなければ無いなりの工夫をすることが大事。  
ただし、感染兆候がある創傷の場合は覆わない！

\*資料7ページ目

- ・ガーゼ＝安いと安易に考えない。交換回数や治癒するまでにかかる期間によっては逆に高くなる可能性もあるため、創傷に適したものを選択できるようになることが必要。

\*資料10ページ目

- ・褥瘡治療と軟膏、今何を指しているのか？  
→医師が外用薬を処方した目的を把握する。  
そのうえで、効果が得られていないと思ったら医師に相談する勇気を持つ！
- ・創傷にも褥瘡以外にいろんなものがある。傷を見て原因を判断できるようになるだけでなく、普段の状態から起こりやすい創傷が予測できるように、日ごろからしっかり観察するようにしましょう。

\*資料13・15ページ目

- ・記録する際の視点としてTIMEを活用しましょう。
- ・スキンケアの目的は、「その人なりの健康な皮膚を保つ」こと。  
予防にもつながるので、基本を押さえしっかり行いましょう。
- ・スキンケアの実際 →基本は「洗浄・保湿・保護」の3つ。

\*事例・まとめ

- ・創傷ケアはただ傷を治すだけではない。ケアを通してその方のADLやQOLを向上させる可能性も秘めている。ぜひ、多職種と連携することで、その方その方にあったケアを見つけていってほしい。